



高知市立学校におけるOJTの取組

～横浜中学校の実践から～

主幹教諭が校内若年者研修を企画・運営 －若年者研修に組織で取り組む－

取組内容

横浜中学校では、主幹教諭が配置された平成23年度から、「学校組織における主幹教諭の役割の追究」、「学校組織における人材育成」、「教員としての資質・指導力の向上」の三つのねらいのもと、校内若年者研修を実施しています。この研修は「若年研」と呼ばれ、主幹教諭が中心となり毎週木曜日の放課後、1か月に2回程度のペースで行われ、研修内容は学校行事等に応じてタイムリーなものになるよう計画されています。

目的

- 教育公務員としての自覚をもたせる
- 授業力を向上させる
- 生徒理解力、指導力、支援力を向上させる
- コンプライアンス意識を向上させる

メンバー構成

オブザーバー

- 教頭

指導者

- 主幹教諭
- ミドルリーダー教員
 - ・ 生徒指導主事
 - ・ 教務主任
 - ・ 生徒会担当
 - ・ 人権教育主任
 - ・ 特別支援教育学校コーディネーター 等



対象

- 教員採用候補者選考審査を受審する
臨時的任用教員
- 初任者 ○ 2年経験者教員
- 3年経験者教員



コメント

学校長から

「若年研」や「学年主任会」等、主幹教諭のミドルマネジメントにより学校の組織力が向上したと思う。

主幹教諭から

「若年研」に参加している先生方はみな、学級経営や部活動、教材研究に日々遅くまで奮闘している。そんな先生方の仕事に少しでも余裕が生まれてほしいと思ひ、今までに培ってきた経験・ノウハウを伝えている。また、一人ひとりのよさを生かしながらチーム学校の一員としての自覚と遂行力等の向上を図っている。

H28年度の実施状況

9月1日現在

日時	内容
4/20	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内若年者研修について ・ 参観授業に向けて ・ 授業で実践するよう意識したらいいこと
5/19	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テストについて (問題の作成法, 採点時・返却時のポイント)
5/26	<ul style="list-style-type: none"> ・ あったかアンケートの結果をもとに (傾聴のポイント)
6/16	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広島市立祇園東中学校視察について (目的, 生徒や授業の様子を見るポイント, 服装等の留意点)
6/30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期の期末懇談に向けて準備すること (目的・懇談に役立つこととして・準備物・懇談内容・その他留意点)
9/1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育大会を通して (ラジオ体操・取り組む姿勢・体育大会後の生徒のゴールイメージ)

参加者から

- ・ これからある行事や懇談に向けて、心がけることやポイント、また日常生活で気を付けることなどについて、学ぶことができた。
- ・ みんなで共通理解ができるので、悩みもお互いに相談しやすく、同じ方向を向いて取り組んでいくことができる。
- ・ 昨年度に学んだことも振り返ることができてよかった。
- ・ 学級経営のポイントや学びの授業づくりのポイント等、的確なアドバイスをもらうことができ、とても勉強になる。
- ・ 授業に関わる悩みなども若年の先生方のなかで共有し、質の高い授業がつけられるように「若年研」を通して成長していきたい。
- ・ 授業・生徒指導・部活動・学校組織のことが理解でき、自分自身が大きく成長できる場であると思う。
- ・ 本校に初めて勤務しているが、本校ならではの事情や慣例を職員会より前に教えてもらうことができる。

目的

魅力ある「分かる授業」を創るため、通常の学級の授業における特別な支援を必要とする児童生徒への指導の在り方を学び、授業力の向上を図る。

研修Ⅰ【公開授業】「やさしさへのアプローチ ～つながる笑顔～」

授業者：朝倉第二小学校 小林 葉月 教諭

【本時の目標】 「在宅介護センターわかくさ」から学んだことを生かし、歌をつくることでお互いの考えを伝え合う。

【全体のなかでより個に着目した支援】

- ・ 積極的に自分から活動に参加しにくい児童が班で伝え合うことができるよう、事前に声がけをする。
- ・ 児童が意見を言えるよう、歌詞に入れたい三つの言葉を書いたカードを各自で持っておくようにする。
- ・ 班全員の言葉や考えが入る歌詞になるように確認する。



研修Ⅱ【講評・講話】「授業における特別な支援を要する児童生徒への指導の在り方」

講師：プール学院大学 松久 眞実 准教授

特別支援教育の視点を大切にした指導のポイント

〔ハード面〕
視覚支援
スケジュールの表示
教室の構造化

指導の両輪
子どもの年齢が上がるほどソフト面が必要

〔ソフト面〕
褒め方・叱り方
分かりやすい話し方
教師を信頼・尊敬しているか

学習の定着には「量」も大切。でも、子どもが「飽きない工夫」をしよう。



ユニバーサルデザインの授業づくり

導入を工夫する

- ・ つかみは楽しく、かつ、興奮させずに興味をもつことができるようにする
- ・ 落ち着いて学習に向かうことができる雰囲気をつくる

⇒ 例 「はじめます」で2, 3秒はアイコンタクトをとり、授業の始まりを伝える

1時間に何度かクールダウンを入れる

- ・ 楽しい活動が長く続くと、だんだんテンションが上がることを念頭におき、時間配分をする
- ・ 黙って書く静寂の時間をつくる
- ・ 非言語のジェスチャー、アイコンタクト、ひそひそ声で伝える
- ・ 好意に満ちた語りかけをする
- ・ 音や言葉を減らす

つかみ

授業のねらい
(発問の工夫)

クールダウン

心が動く活動

知識の押さえ
(確認)

ソフト面への手立て

《好意に満ちたクラスづくり》

- ・ 子どもを信じる ⇒ 子どもを疑わない
- ・ 言い分を聞く ⇒ 決めつけない、責めない
- ・ 「アイビリープ」という気持ちでアイメッセージを送る ⇒ 嫌みや皮肉を言わない

温かいクラスになる

少しの手間で、大きな効果を生み出す活動を仕組む

- ・ 授業の半ばで「へえ～」「おお～」「なるほど」など、心が動く活動を取り入れ、興味をかき立てる

⇒ 例 かくす、じらす、パッと見せる、部分的にかくす、ゲーム、クイズ、ペアワーク、グループワークなど

【受講者の感想】

- ・ 授業における「つかみ」の大切さを感じた。教材研究がしっかりできていても、導入の仕方次第で、特別な支援を要する子どもたちの授業参加に大きく影響を及ぼすため、今後は導入をより大切にしていきたいと思った。
- ・ どうすれば学級が落ち着き、子どもたちが意欲的に授業に臨めるのかについてヒントを得ることができた。導入での工夫、展開での心が動く活動、振り返りをもっと大事にしていきたい。また、教師の話し方、間の取り方、時間配分、クールダウンといったさまざまな技術を取り入れていきたい。